

台詞と音楽 ～ 感動の 2024

2024 年 12 月 29 日

M.Fujii

2024 年に強く感動した台詞や音楽などを記します。

I. 能登半島地震放送時の山内アナの呼び掛け

感動した一つは、2024 年 1 月 1 日午後 4 時過ぎの能登半島地震放送での NHK 山内泉アナの呼び掛けです。「津波警報です。すぐに逃げて下さい。」「テレビを見ていないで、急いで逃げて下さい。」「大津波警報が出ました。今すぐ逃げること！ 高いところに逃げること！」 体言止めの強い口調は、一般の放送で聴かない初めてのものだったので非常に驚きました。他者に対しての真剣な思いや魂の叫びが十分に届くものでした。言葉で命を守る姿勢とともに危機感に溢れた語り口は、放送で救える命があるのだということを教えてくれました。

II. パリ・オリンピック開会式のセリーヌ・ディオンの『愛の讃歌』

二つ目の強い感動は、パリ時間 2024 年 7 月 26 日夜、日本時間 27 日未明のパリ・オリンピック開会式最後にセリーヌ・ディオンの『愛の讃歌』です。聖火リレーの最終走者が火を点けた気球の上昇に合わせ、エッフェル塔にセリーヌ・ディオンの登場し、雨に濡れるピアノの伴奏に合わせ、フランス語で歌い上げました。セリーヌ・ディオンはスティッフパーソン症候群という神経疾患で闘病中であり、難病を抱えながらの『愛の讃歌』でした。これまで十数回夏のオリンピック開会式を観ている中で、心から感動と尊敬を初めて覚えました。オリンピックから 5 か月経ちますが、YouTube でこの場面を再視聴して感動を重ねています。

Ⅲ. NHK まいにちフランス語応用編

三番目に感じ入ったものは、2024年10月より3か月間木曜・金曜日で放送されたNHK ラジオフランス語講座『まいにちフランス語応用編 Art de la parole を学ぶ』です。これが物凄く秀逸でした。

17世紀のフランス作家 ジャン・ド・ラ・ブリュイエール Jean de La Bruyère の『キャラクター (Les Caractères ou les Mœurs de ce siècle)』(1688年)を取り上げて解説したものです。『当世風俗誌～人さまざま～』として一時期岩波文庫で出ておりましたが、現在絶版で残念です。宮廷、社交界、庶民の生態や生活を皮肉まじりに描いている作品です。現代とあまり変わらない人間模様が描かれています。

(1) 「人々の間に貧富の差が生まれるのは、ほんの偶然に過ぎない。社会的な成功そのものに目を奪われてはいけない。」 「接近、そして観察、最終的に勘定計算による他者判断を大抵の人は行う。他者判断は、社会的な評価や富・地位を表す外見に基づいて行われていて良いのだろうか。」

⇒ モンテカルロ・シミュレーションなどの統計的な実験で、“貧富格差が拡大する状態に遷移するメカニズム”が記述しているように、現代でも貧富の差が生まれたり拡大するのは極めて確率的な、ある種必然のような気がします。

(2) 「本当に存在するのは、人間というより世界である。人間の運命の如何ともし難い儚さを考えるのは、矢継ぎ早の世代交代を観ていると分かる。人間が自分たちの意思の結果だと信じているものは、実は人間ではなく社会システムが機能した結果に過ぎない。単なる仕組みにしか過ぎないものに感情を込める必要はない。」

⇒ BBC Drama の“Luther”にも似たようなセリフがありましたが、「自分の行動は自分で決められるが、行動の結果がどうなるかは決められない。行動の結果は制御不能。ある行動が反応を呼び、それがまた別の反応を呼ぶ。そして、その全てが混沌に満ちた社会を作る。」ということでしょうか。

(3) 「社交集団の表面的な団結と内在する脆弱性、集団心理の虚しさを考えると、いつか集団としての団結は終わり、一体感は長続きせず、熱はいつか冷め切ってしまうことを覚えておく必要がある。また、仲間の言動は全て肯定し無批判に受け入れ、よそ者の言動は全て否定し排除するような人々の多さを考えておく必要がある。」

⇒ ラ・ロシュフコー箴言集 No.375 「凡人は概して自分の能力を超えることを

全て断罪する。」を思い出させてくれます。

IV. ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 交響曲第九番

2024年を通して私を後押ししてくれたのは、ベートーヴェンの交響曲第九番ニ短調 Op.125 です。

私自身の小さなチャレンジですが、今年こそは第九合唱に参加したと思い、ドイツ語を4月より半年間 NHK ラジオ講座で学習しました。複数の第九合唱団に入り、それぞれの練習会をこなし、12月中旬には日本三大第九の一つである「第九ひろしま2024」合唱演奏会に参加しました。

沼尻竜典指揮者、広島交響楽団、ソリスト、1,100名余りの合唱団員と運営スタッフで作上げた40周年の記念合唱演奏会に1 / 1,100の一団員として参加でき、まさに「歓喜に寄せて」(J.C.F.v.シラー) でした。

2025年は蛇年です。蛇は、脱皮して成長するさま、長期の飢餓状態にも耐える強い生命力から“死と再生”“不老不死”の象徴です。ウロボロスの蛇は、その蛇が自らの尾を噛み環となったことで始まりも終わりもない完全体としての象徴的意味が加わり、循環性 (i.e.永劫回帰)、永続性 (i.e.死と再生)、無限性 (i.e.不老不死)、完全性 (i.e.全知全能) を意味するようになっています。

2025年も幾つかの同じ習慣を続けているのだと思いますが、仕事や趣味の面で今より充実させたいと思っております。そのために周到に準備し着実に実行していきたいです。

以上